



つくば市議会議長 黒田 健祐 様

令和8年6月1日

つくば市議会議長 黒田 健祐 様

日本人としての誇りと郷土愛を育み、人格形成のための倫理・道徳の  
教育推進に関する請願書

請願者 住所 つくば市

氏名

連絡先

紹介議員（署名）

五頭素言誠  
黒田 健祐

【請願趣旨】

道徳とは、広辞苑によれば「人のふみ行うべき道」であり、分かりやすく言えば「物事の良い悪いを決める心の基準」です。文部科学省の学習指導要領においても、道徳教育の目標として「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する心」の育成が明記されています。しかし、現在の教育現場では、日本人が自信を持って生きていくために必要な「心の軸」を育む教育が十分とは言えません。

日本は、古くは縄文時代から数千・数万年にわたる平和な暮らしを経て、二千六百年以上前に初代神武天皇が中心となって建国された、世界で最も長い歴史を持つ国です。この歴史の中で先人たちが築き上げ、命をかけて守ってきた精神や伝統文化は、現代の私たちにとって「何のものにもかえられない大切な宝物」です。

しかし現状、日本の子供たちは自国の成り立ちである神話や建国の歴史を学校でほとんど学びません。驚くべきことに、フィリピンやアメリカの教科書には、日本の神話（イザナギ、イザナミ）や天孫降臨、神武天皇による建国の様子が掲載されています。「自国の成り立ちを誇りを持って教える」ことは世界の常識であり、日本人が自国の神話や建国を知らないことは、国際社会において極めて不自然な状況です。

また、日本独自の強みは、2000年以上引き継がれてきた神道を基に、宗教の自由、倫理、道徳、文化、そして武道の考え方が一体となり、日本語を通じて教育、仕事、過去の歴史など同一の誤差のない概念で共有されていることにあります。これが他国の場合には、様々な宗教や言語、出身国の文化によって概念に揺らぎやずれがあり、日本のように共通概念で考えることが難しい状況です。

例えば、建設の世界を例にすると日本の職人が「隠れるところの仕上げ」を疎かにせず、ものづくりを行うことで、地震に強い建物や精度の高い製品を作れるのは、仕事そのものを「人生の道」と捉える高い倫理観や道徳感があるからです。品質の高い製品ができるのには、こうした精神性を継承する必要があります。

日本人としての倫理や道徳の教育は、そういった意味では製造業などの技術現場での継承だったり、研究などの取組において、社会実装するときの製品をつくる基礎である生産する技術力が継承が危ぶまれている現代において急務と言えます。

さらに、郷土である茨城県の歴史や郷土の話についても、正しい教育が必要です。茨城は、魅力度ランキングで低迷しがちですが、それは「地元を知らない」ことが原因です。最近の研究では、縄文時代、茨城周辺が日本の中心であった可能性が示唆されており、陸平貝塚や鹿島神宮、筑波山神社といった歴史的資源がそれを裏付けています。また、日本の成り立ちに大事な国譲りを行った神様の鹿島神宮は、伊勢神宮や出雲大社と同様に日本の大切な神様であり、国の成り立ちの重要な神様でもあります。

鹿島神宮の鹿島の太刀は日本最古の武術であり、武甕槌大神から鹿島の太刀を国

摩真人（中臣、卜部、吉川の祖）授かり、神官の七家に継承され鹿島七流、関東（坂東）七流とも言われ、日本の武道の源流になっています。また、中臣（藤原）鎌足は鹿島出身であったり、忠臣蔵の大石内蔵助などは常陸国真壁藩の笠間出身であったりと多くの偉人を輩出しています。

こうした郷土の価値や歴史上の偉人たちの生き方を学ぶことは、子供たちが地元を誇りを持ち、自信を持って将来を切り拓く力となります。

以上の点から、つくば市の子供たちが、日本と郷土を愛し、国際社会で堂々と自分を発信できる日本人へと成長できるよう、以下の事項をお願いいたします。

#### 【請願事項】

学校教育の場において、神代からの日本人の歩み及び茨城・つくばの郷土史や偉人の生き方を学ぶ時間を積極的に設け、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行うこと。

以上